

## 表象文化論コース 卒業論文執筆要項(2025 年度)

1. 原則として日本語で執筆すること。外国語での執筆を希望する場合は、事前に理由書を主任に提出し、承認を得ること。
2. 訳を除いた本文 30000 字を目安とする(外国語で執筆する場合もこれに準じるものとする)。
3. 原則としてワープロを使用し、用紙は A4 とする。縦書き・横書きは自由。
4. 出典の註と参考文献一覧・書誌(論文中で直接言及した文献に限る)を必ずつけること。また、中表紙(論文題目・氏名・学籍番号を記載)と目次を冒頭に付し、各ページには番号を振ること。
5. 補助資料(映像・音声資料など)を付すことも可能だが、事前に指導教員およびコース主任に相談すること。
6. 外国語による要旨を付すこと。使用言語は英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語のいずれかとする。欧文の場合は A4 で 2 ページ以内、12 ポイントの大きさの文字で、1 ページ 25 行程度を標準とする(中国語の場合は担当教員の指示にしたがうこと)。外国語である場合、レジュメは日本語で執筆すること(詳細については担当教員の指示にしたがうこと)。
7. 卒業論文題目届を 11 月末までの所定の期間内に教務課後期課程係に提出しなければならない。届けた題目と最終的な題目を変えたい場合は、事前に指導教員とコース主任の承認を得ること。
8. 論文提出期限を厳守すること。列車事故、自然災害といえども情状酌量の対象にはならないので、余裕をもって提出すること。
9. 論文本文を仮製本以上の装丁をしたうえで、3 部を教務課後期課程チームに提出すること(要旨はホッチキス止めで構わない)。また提出当日に論文のデータをコース主任 <[mathieucapel@g.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:mathieucapel@g.ecc.u-tokyo.ac.jp)>まで PDF で送ること。
10. 論文査読は指導教員 1 名が主査となり、ほかに副査 1 名とコース主任が担当する。
11. 論文審査(口頭試問)は 1 月下旬あるいは 2 月上旬に、原則としてコース所属の全教員が参加しておこなう。
12. 論文審査終了後に、誤字・脱字など形式的なミスを訂正した上で、保存用論文を冊子で研究室に提出すること。

### 13. 生成系 AI ツール使用について

- ・ 学術の世界だけでなく社会活動全般において、個々人のアイデアや独創性を尊重することが重要である。レポートや論文では、根拠となった出典を明記した上で、自分なりの考えを記載することが求められる。卒業論文を提出する際に、生成系 AI ツールが生成した文章および翻訳(論文要旨を含めて)をそのまま自分の文章および翻訳として用いることは認められない。
- ・ 生成系 AI ツールによって生成された文章は、一見妥当そうに見えても、間違いが含まれていたり、利用者の意図には整合しない内容になっていることがある。生成結果を鵜呑みにするのではなく、自ら必ず吟味したうえ、適宜修正するなどした上で活用する必要がある。
- ・ 表象文化論コースでは、生成系 AI ツールの使用を一律に禁止しているわけではないが、使用しないことを推奨する。利用する場合には、必ず指導教員と相談したうえで、その使用箇所と使用理由を論文の脚注などに明記すること。